



毎月十五日発行
所像 像 社会
宗宗 〒811-35 藤原京都市北区東山町
電話 090-62-131140
定価 1年送料共 1000円

五月・浜宮祭斎行

春うららかな子供の日に



神宮像後の象徴
四塚連
山も目に鮮かな新緑に覆われ、釣川の水面も爽やかな風が吹き渡る、端午の節句の五月五日、特に五月晴れの絶好の日和に生まれた五日祭並びに浜宮祭が厳粛に斎行された。

先ず午前十時、神湊の浜宮にて義父宮司以下神職奉仕のもと浜宮祭を斎行、元段天区の松本区長を始め小山區議会議員、和田玄海町長、松井町議会議長、横山教育長に氏子縦代、地元住民、子供達と多数が参列し、境内は人波で溢れた。

祭典終了後、神湊地区小

学生参加による奉納子供相撲大会が開催され、土俵浜宮祭に引き続き、祭場を鈴川口の五月宮に移し、五月祭を斎行、神難を開む生垣も新たに編み変えられ、青竹の香漂う神前、江口区の今古賀区長・白石玄海少年の家所長・出光氏子会副会長・田島区縦代等が参列して祭典は満りなく執り行われた。

この日両宮の神前にお供えられた神饌には、海川山野の味物に、赤飯、菖蒲油漬け、ちまき、ガメの葉餃頭等が加えられており、子供達の

明治以前の律令制下にあっては、かか立柱祭の儀が三月十一日皇大神宮、同十三日豐受大神宮の順序で斎行され、筆者は遷宮委員会委員の故をもつて参

列の栄に浴することができた。兩日ともにいたる陽光のもと、大宮司以下の神宮神職および技術者たちは、大宮司以下の大宮主ら式年造當所関係者たちは、その総監以下忌鏡治辺りに奉拂し、感懐したるものがあつたが、就中、新殿の大宮主を打ち固める稚音は老杉の枝に朝らかに斜してまたこの神々しく、この國の本柱を打ち固める音ともきこえ、限りないめでたさを覚えたことであった。

案内による立柱祭の日時は、既に齋行された山口祭、木本祭、御船祭、本造始祭、鎮地祭、またその後に行われる上棟祭、杵築祭、および遷御と奉幣の御儀の日時と同様に、掌典長より宮内府長官を経てお定めを仰ぐことが戦後の例となつてある。しかし、これがまたことに空虚らしいことと考え

健やかな成長を祝う「端午の節句」の祭典を象徴している。最近では「人間ドック」と称する、日帰り或は

了した後、当社五月祭にて直会が催された。横の若

葉が敷かれた折敷に盛られた赤飯、ガメ煮、膾、ちまき、ガメの葉餃頭の御膳

手作りの栗等で盛りながら、和やかな一刻を過ごした。

この祭典は、中世「五月

江戸の五月五日と云ふ

江

